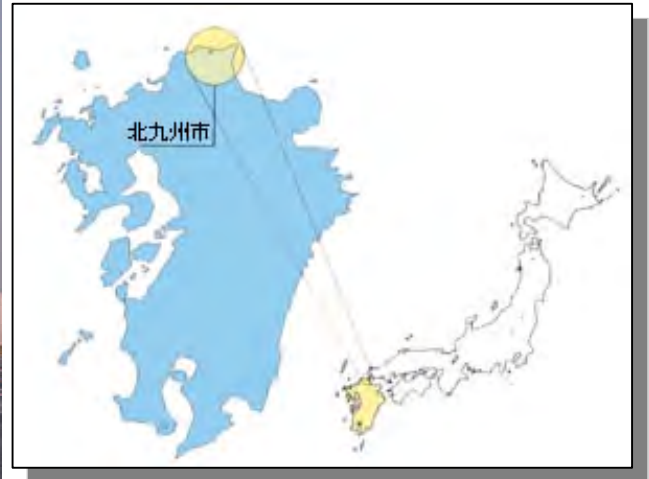




## 北九州市消防航空隊



1. [はじめに](#)
2. [北九州市の消防](#)
3. [消防航空隊の概要](#)
4. [機体の名称・デザイン](#)
5. [保有ヘリコプター主要性能・諸元](#)
6. [活動実績](#)
7. [合同訓練](#)
8. [おわりに](#)

### ●はじめに

北九州市は九州の最北端に位置し、関門海峡をはさんで本州と九州を結ぶ海陸交通の玄関口となっています。市域面積は、487.66km<sup>2</sup>で、福岡県域の10%を占めています。

人口は約100万人で、昭和38年2月に、門司・小倉・若松・八幡・戸畑の5市が対等合併するという世界でも例のない形で誕生した九州初の百万都市です。

北九州といえば、1901年(明治34年)に官営八幡製鉄所が操業を開始して以来、わが国の重工業の発信源として『鉄の街』というイメージが定着していますが、日本の産業転換に合わせるかのように環境・観光・福祉・物流都市へと、その姿を変えつつあります。

また、本市は古くから海上交通の要衝である関門海峡を含む200kmを越える長い海岸線と、蜚の生息地もある大小300を越える河川を持っており、東部から南部にかけて広大な山塊を形成し、大都市の機能を持ちながら、豊かな自然環境にも恵まれています。

## ●北九州市の消防

### 消防本部

北九州市消防局は本部に4部10課、及び7行政区に7署4分署15出張所を置き、約1,000人の職員が防災の任にあたっています。

平成19年中の本市における火災等の概況は、火災531件、救助532件、救急46,040件となっています。

北九州市消防局では、平成14年4月に新庁舎を建設し近年高まっている市民の防災行政に対する期待に応え、消防業務の高度化や複雑、多様化する災害に対応しています。

### ■消防本部

総務部	総務課	庶務係 経理係 施設係
	人事企画課	人事係 企画広報係 消防音楽隊
	訓練研修センター	

予防部	予防課	予防係 火災調査係
	指導課	危険物保安係 建築設備係 査察指導係

警防部	警防課	警防係 救助係 消防団係
	救急課	救急係 救急指導係
	消防航空隊	

防災対策部	防災課	防災係 計画調整係 通信管理係
	指令課	指令第一係 指令第二係 指令第三係

## ■消防署(7署4分署15出張所)

消防署	予防課	庶務係 予防指導係
	警防課	警防第一部 警防第二部 警防第三部



## ●消防航空隊の概要

平成5年5月14日に発足した北九州市消防航空隊は消防局警防部に所属し、北九州空港内に基地を置き、消防航空隊長以下8名(操縦士2名、整備士2名、航空救急救助隊員3名)、ヘリコプター1機(AS365N2ドーファンⅡ / 名称『きたきゅう』)で、火災・救急・救助等の消防航空活動を行っています。

また、ヘリコプターの運航は災害活動に限らず、風水害危険区域の調査や広報活動などの行政目的にも幅広く活用されており、北九州市における各種プロジェクト推進の一助として貢献しています。

## ●機体の名称・デザイン

機体の導入に際しては、広く市民から愛称及びデザインを公募し、『きたきゅう』の名称と、デザインについては、救急を表す「白」をベースに、市の頭文字の『北』をイメージしたラインを消防の「赤」で入れ、これに本市の豊かな自然を表す海の「青」と山の「緑」を加えたカラーリングになりました。



し  
し

## ●保有ヘリコプターの主要性能・諸元

製造会社	ユーロコプター・フランス社
型 式	アエロスパシアル式 AS365N II 型
登録番号	JA6701
全 長	13.684m(メインローター含む)
全 幅	3.255m(水平安定板含む)
全 高	3.808m(垂直安定板含む)
最大離陸重量	4,250kg
機体重量	2,839.4kg(ホイスト・スリング・HTV含む)
最大搭乗人員	14名(パイロット含む)
最大速度	324km/h
巡航速度	250km/h
航続距離	約950km
発動機	ツルボメカ社製 アリエル1C2型
発動機出力	733HP×2基
ホイスト能力	272kg・90m
カーゴ・スリング	1,600kg(最大機外吊下能力)
消火バケツ	545リットル
ラウドスピーカー	900W
サーチライト	1,600W



## ●活動実績

消防航空隊は市内で発生する火災・救急・救助等の各種災害に出動するばかりでなく、消防組織法第39条及び第44条に基づき、県内外を問わず災害が発生した市町村の長から出動要請を受けた場合は、その機動力を活かして広域航空消防応援活動も実施しています。

平成19年中の運航実績は250件、飛行時間303時間10分で、そのうち災害出動は68件、41時間43分、広域航空消防応援出動は2件、14時間05分となっています。

【内訳】					
出動種別		件数		運航時間	
災害出動	火災	51	68	25時間28分	41時間43分
	救急	9		8時間25分	
	救助	2		2時間05分	
	その他	6		5時間45分	
他市町村への応援出動	火災	1	2	9時間25分	14時間05分
	救急	1		4時間45分	
	救助	0		0時間00分	

※ 平成11年10月8日、台風18号による被害調査として自治省(当時)消防庁長官が同乗し熊本県不知火町に調査出動しました。

また、近年の特異災害出動としては、平成13年3月24日、総務省消防庁からの要請により芸予地震被害調査のため出動、山口県山陰地方一帯を調査しました。さらに、平成19年3月1日、2日の両日に熊本県阿蘇郡南阿蘇村において発生した林野火災に、総務省消防庁からの応援要請により出動、延べ69回の空中消火を実施しました。



## ● 合同訓練

火災、救急、救助等の各種災害で、その機動力を活かした活動を行えるよう消防航空隊では自隊訓練とは別に次のような合同訓練を毎年実施しています。

### 1 救急隊との合同訓練

離島からの患者搬送訓練のほか救急隊の現場到着が遅れる可能性のある場所での患者搬送訓練を実施しています。

### 2 救助隊員との山岳救助合同訓練

各消防署の救助隊員を招集し、市内山系で発生する救助事例を想定した総合的な山岳救助訓練を実施しています。

### 3 警防隊との空中消火合同訓練

市内山系において大規模な林野火災が発生した場合、消防ヘリコプターによる空中消火は必要不可欠なものとなっています。このため、消火バケットへの給水を行う消防隊との迅速な連携を維持し、効果的な消火活動が行えるよう訓練を実施しています。



### 4 直近署所との連携合同訓練

離島及び山岳地等で発生する災害に対して、隊員をいち早く現場に投入できるように航空隊基地に近接する署所の消防隊員、救助隊員及び救急隊員に、ホイストを使用した降下・収容訓練を実施しています。

## 5 航空応援隊員との合同訓練

火災、救急、救助等のあらゆる災害において、ヘリコプターの航空活動をより効果的に実施するためには地上消防隊との連携活動が不可欠です。

そこで北九州市消防航空隊では、各消防署救助隊員の中から航空活動をサポートする航空応援隊員を指名し、ヘリコプターの誘導、機外活動等の航空活動に関する全ての知識を習得するための訓練を実施しています。

## 6 その他

現在わが航空隊では、平成12年度から北九州医師会からの依頼により「ヘリコプター緊急搬送講習会」を実施しています。

これは、ヘリコプターによる救急搬送時の医療機関との連携を図るため医師等を対象にヘリコプターの知識及び有効性、同乗時の諸注意等を講習しています。



---

## ●おわりに

2006年3月に、周防灘沖合に24時間空港としての新北九州空港が開港されました。

消防航空隊もこの海上空港に移転し、今後も市民生活の安全・安心を確保する消防航空体制の充実を図るべく、日々訓練に励んでいるところです。

---

[2000 の詳報](#)

[2002 の詳報](#)

---